

【キャップ転用】細菌は栄養だけを宿主細胞に依存するが、多くのウイルスはホストの転写や翻訳を操作する蛋白質を作り、ホストの蛋白よりウイルスの蛋白を合成するようになる。ウイルスは全て自身の蛋白の生産をホストのリボゾームに行わせる。

(ウイルスの中には自身の遺伝子の複製、転写もホストに行わせるものもある)。真核細胞では宿主細胞が自分の mRNA の情報を翻訳してアミノ酸の合成を開始するには翻訳開始

因子の 5'キャップの識別が必要である。(原核生物(細菌)では翻訳開始は開始コドン AUG^{*1}とその数塩基上流にある発見者の

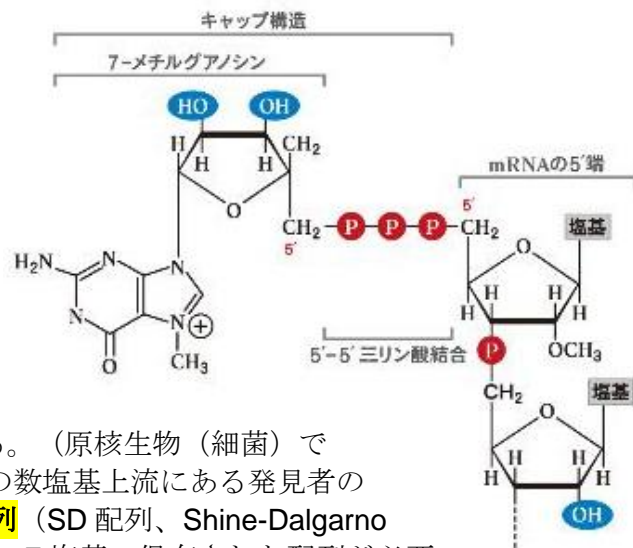
名前をとった **シャイン-ダルガルノ配列** (SD 配列、Shine-Dalgarno sequence) と呼ばれる **AGGAGGU** の 7 塩基の保存された配列が必要、

ここにリボゾームが結合する) 哺乳類(真核生物)では tRNA が 2 種の開始因子

(eukaryotic initiation factor, eIF) と結合した mRNA の 5'CAP 構造(右図)と結合し、AUG を探して翻訳を始める。ウイルスには宿主の 5'キャップを切断するエンドヌクレアーゼを持ち、さらに遊離した 5'CAP をウイルスの mRNA 合成のプライマーとして使うものもあり、「キャップ転用、cap snatching」^{*2} と呼ばれる。CAP 依存性エンドヌクレアーゼ阻害剤^{*3}はこれを阻害。【5'キャップ】は真核生物の細胞質 mRNA などの 5'末端に見られる修飾構造で、成熟 mRNA の安定性と翻訳開始などに関与している。

ミトコンドリアや葉緑体の mRNA にはキャップ構造は存在しない。mRNA の 5'にメチル化されたグアノシンの 5'を 3 リン酸で結合した mRNA を酵素による分解から保護するキャップのようなはたらきを持つ構造として 1975 年東大の三浦と古市により発見された (Nature 1975 31;253:374-375) 【ウイルスの増殖】は多様であるが次の過程を経る。

①感染ウイルス粒子の解体 ②ウイルス ゲノムの複製 ③宿主細胞の翻訳装置によるウイルス蛋白の合成 ④これらの成分を集合させてから子孫のウイルスの組立てを経て宿主細胞に感染した 1 個のウイルス粒子(ビリオン virion)が数千個のウイルスを作る。この急激なウイルスの増殖がしばしば宿主細胞を死なす。宿主細胞は壊れて(溶解)子孫ウイルスは近傍の細胞に感染する。ウイルス感染でみられる臨床症状の多くはこのウイルスの細胞溶解作用(cytolytic effect)によるものである。Herpes の水泡も皮膚の感染表皮細胞が死んだ結果である。【ウイルスの構造】ウイルスのゲノムは蛋白の規則正しい層構造のキャプシッド(capsid)でかこまれている。エンベロープのあるウイルス(enveloped virus)では宿主細胞から離れる時にキャプシッドが宿主の細胞膜の脂質 2 重層で包まれる。エンベロープのあるウイルス(インフルなど)は宿主細胞を殺さずに出芽によって外に出るので、慢性感染を起こしたり癌化を助けたりするが、エンベロープのないウイルスは感染した宿主細胞を溶解して外に出る。これらのウイルス・ゲノムに共通して書き込まれている蛋白は 3 種類あり、①ゲノム複製のための蛋白 ②ゲノムを包む蛋白 ③ウイルスに都合が良いように宿主細胞の機能や構造を変化させる蛋白の 3 種である。【ウイルスに対する宿主の免疫】一般にウイルス表面には病原体関連分子配列(pathogen associated molecular sequences, PAMPs)は存在しない(ウイルスの蛋白は宿主のリボゾームで作られ、エンベロープは宿主の細胞膜)。唯一ウイルスに特有の分子配列は 2 本鎖 RNA(dsRNA, double-stranded RNA)で宿主細胞はこれを使い RNA 干渉(RNA interference, RNAi)を免疫に利用する。



^{*1}A:アデニン G:グアニン C:シトシン T:チミン RNAなので T:チミンではなく U:ウラシル。 ^{*2}Bruce Alberts 他:「THE CELL 細胞の分子生物学 4 版」1449p。 ^{*3}ゾフルーザ